



ボールを的に近づけられるかで勝負が決まるポッチャ。熱戦が繰り広げられていた



併設のカフェには管理栄養士が常駐。サービス提供や交流も日頃の栄養管理に活かしている



2階のラウンジには窓に面した席もあり、ゆったりと過ごせる



ラウンジにあるピアノを楽しむ入居者



ラウンジの一角にあるカフェ。入居者のほか地域の人も利用しているとか

ラグジュアリーな内装にこだわり癒しと安心感でこれまでと同じ生活をサポート

千葉県北西部に位置し、有名なテーマパークがあるまちとして知られる浦安市。そんな浦安市の住宅街にあるのが、介護付有料老人ホーム「コンシエール舞浜」だ。

目を引くのは、木を基調としたモダンな外観やカフェの文字が入ったオレンジ色ののぼり。一目見ただけでは、「高齢者施設」だとは想像できないだろう。中に入ると、ソファやグランドピアノが設置されたラウンジが目に入った。外観だけでなく内装もまた、まるで「高級ホテル」を彷彿させる。

「『ゆとり』『やすらぎ』『おもてなし』をケアの柱にし、入居されてからも自分らしい生活を続けてもらえるようサポートしています」と、総支配人の飯田望さんは説明する。今までの生活を継続できる環境を提供したいという思いから、「高齢者施設」を感じさせない外観・内装を工夫している。

「入居者様が日々笑顔で自分らしく暮らしていただけるよう、さまざまな工夫をしております。ご友人やご家族との交流を楽しめる場所やイベントの開催など、暮らしに彩りをご提供できるよう心掛けています。大人の嗜みに相応しい住空間で上質な介護を提供するため、職員一人ひとりが身だしなみやしぐ

さに気を付け、程よい緊張感とプライドをもって勤務に臨んでいます」と、支配人の村尾拓史さんは話す。ケアのコンセプトとして同施設は「癒食同源」を掲げている。「癒」は文字のとおり「癒し」のことを指しており、入居者にフットケア・ハンドケア・ヘッドケアを提供している。フットケアは同施設を運営する株式会社リエイがタイ保健省から認定を得て、高齢者向けに開発。これらのリラクゼーションサービスはすべて、職員が提供する。社内での資格取得制度により、専任セラピストの育成や職員の新人研修でも技術を学ぶ機会を設けている。

「この癒しのサービスは身体的な効果以上に、提供している際のコミュニケーションや触れ合うことでの安心感による『心のケア』につながっているようです」(村尾さん)

「食」に対するこだわりも強い。同社はもともと給食事業を柱としていることもあり、日々提供している食事はすべて自社の栄養士が献立を作成、施設内の厨房で調理し、提供している。食材の旬や味付けにこだわるのはもちろんのこと、朝昼夕の3食とも選択制の食事をとり入れ、自分が食べたいものを選ぶようにしている。これは、食事でも楽しさを演出したいという思いからだ。さらに、同施設では昼食付きの見学会も行っており、そこから入居が決まったケースも少なくない。

「施設の食事には、あまり良い印象をもたれない方もおります。そのため、実際に召し上がっていただくことで、入居されるご本人とご家族にとって安心してもらえる機会になっています」(飯田さん)

続きは、本誌4月号をご覧ください